

岡津第三町内会令和6年度1月度定例会

- 1、岡津小学校地域防災拠点訓練について
- 2、令和6年度の活動に向けて
 - 令和6年 新年会

1、岡津小学校地域防災拠点訓練について

***日** 時：令和6年1月28日（日）
午前9時00分～11時30分

***会** 場：岡津小学校校庭及び体育館

***参加要請**：班 長

***訓練目的**：地域防災拠点の概要の理解

- ・防災拠点の概要説明・避難所体験・大型設備及び資機材の確認

1、岡津小学校地域防災拠点訓練について

*集合：地区別集合

- ・西田地区 8時30分 忠魂碑公園
- ・まほろば地区 8時30分 永明寺別院
- ・川向地区 8時40分 岡津町内会館

※西田、まほろば地区は8時45分までに町内会館
移動、3地区合同で9時までに岡津小学校へ移動



9:20 ■拠点研修開始 *一般参加者は下記のローテーションで研修を受ける

- 防災拠点研修(1) 9:20~10:10 *グループA=体育館(防災拠点の基礎理解&避難所体験) *グループB=校庭(防災拠点設備体験)
 □防災拠点研修(2) 10:20~11:10 *グループA=校庭(防災拠点設備体験) *グループB=体育館(防災拠点の基礎理解&避難所体験)

			集合9:00	9:20	10:10	10:20	11:10	集合11:20	解散11:30
グループ	人員 max	先導 防災部長	15分	移動 5分	防災拠点研修(1)50分 35分	移動 10分	防災拠点研修(2)50分	移動 10分	10分
A	岡津第1	55	オリエンテーション(朝礼台)	移動	体育館		校庭	移動	総括(朝礼台)
	みやこの杜	12			地域防災拠点の基礎理解	避難所体験			
	岡津第2	40			校庭				
	岡津新町	21			□防災拠点設備体験 *はまっこトイレ *地下給水設備 *防災倉庫/防災無線				
	あおば	8							
小計	136								
グループ	人員 max	先導 防災部長			防災拠点研修(2)50分		防災拠点研修(1)50分		
B	岡津第4	52	移動	移動	校庭		体育館	移動	総括(朝礼台)
	グレースシア	13			□防災拠点設備体験 *はまっこトイレ *地下給水設備 *防災倉庫/防災無線				
	岡津第3	37			地域防災拠点の基礎理解	避難所体験			
	ルネ弥生台	17			校庭				
	岡津町西部	13							
小計	132								

□防災拠点設備体験(校庭)時のローテーショングループ

B①グループ

岡津第4 グレースシア	地下給水設備⇒防災倉庫/無線⇒ハマッコトイレ
----------------	------------------------

B②グループ

岡津第3 ルネ弥生台 岡津町西部	ハマッコトイレ⇒地下給水設備⇒防災倉庫/無線
------------------------	------------------------

A①グループ

岡津第1 みやこの杜	防災倉庫/無線⇒給水地下設備⇒ハマッコトイレ
---------------	------------------------

A②グループ

岡津第2 岡津新町 あおば	ハマッコトイレ⇒防災倉庫/無線⇒地下給水設備
---------------------	------------------------

11:30 ■拠点研修終了 ⇒ 一般参加者は校庭朝礼台前へ移動

2、来期（令和6年度）の活動に向けて

(町内会が抱える課題と解決に向けた活動のoutline)

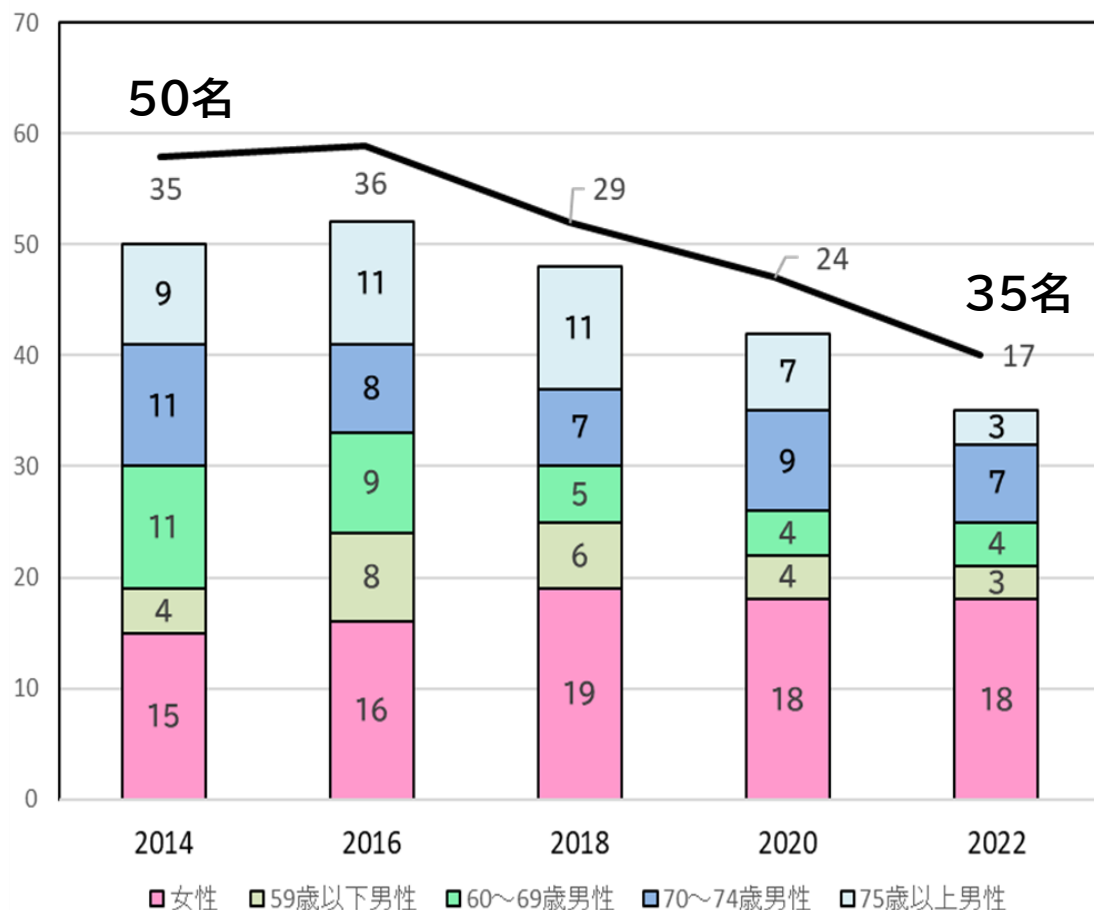
第三町内会の組織体制に関するの問題点

- (1) 役員の継続的な減少 (直近の課題)
- (2) 会員数の継続的な減少 (中期的な課題)
- (3) 会員の世帯特性の変化 (中期的な課題)

(1) 役員の継続的な減少

□2014年役員数50名(男性36名) ⇒2022年役員数35名(男性17名)
⇒これまで行われてきた活動内容の実行が困難になる。

岡津第三町内会役員数の変化



👉60歳代の役員数減少の背景には、町内会のレベルを超えた社会的な変化。

① 60歳以上の就業者の増加

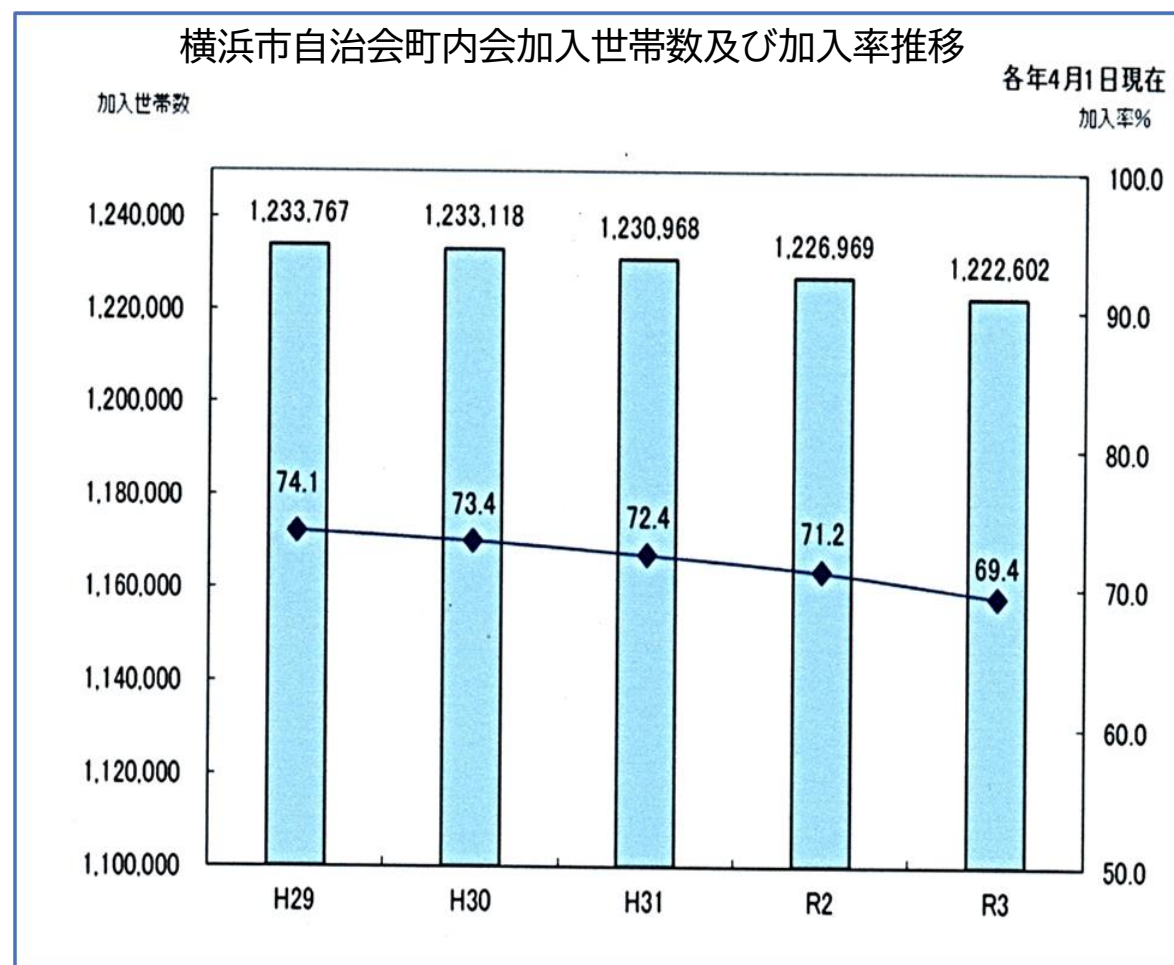
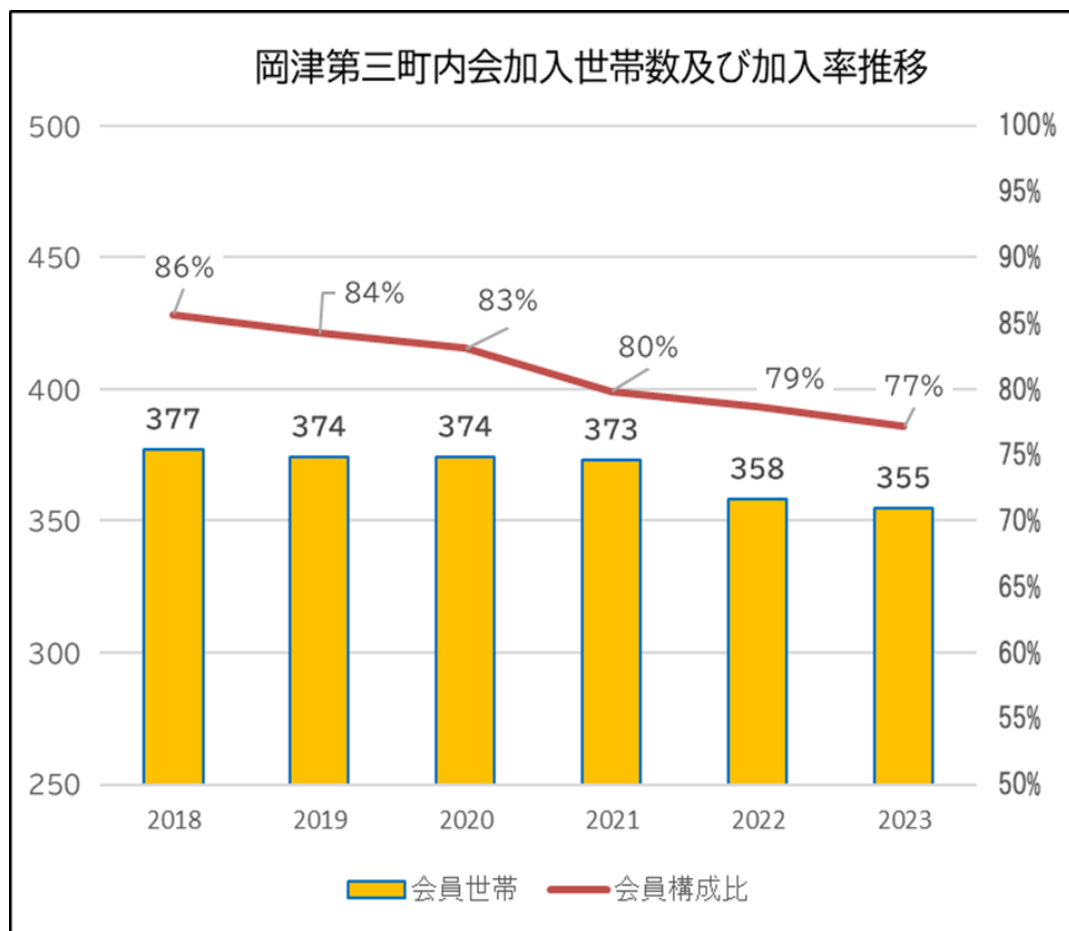
男性の就業者の割合は、
60~64歳=82.7%、65~69歳=60.4%、
70~74歳=41.1%
(令和4年版高齢社会白書:総務省)

② 地域社会との関係の希薄化

日本の社会は、先進諸国の中で、家族などの集団を超えたところでの「他者と繋がりや交流」がもっとも少ない
(世界価値観調査:「人口減少社会のデザイン」・広井良典)

(2) 会員数の継続的な減少

□2018年会員数377世帯、加入率86%⇒2022年355世帯、加入率77%
⇒減少が続くと、地域活動の実効性が失われていく。



(3) 会員の世帯特性の変化

□ 少子高齢化の進行で、70年代のニューファミリー（夫婦＋子供の世帯）中心の世帯構成から、多種多様な内容の世帯により町内会が構成されていくようになる。

☞ 高齢者夫婦のみの世帯

☞ 80-50世帯

☞ 単身（高齢者だけではなく）世帯

⇒ 町内会組織のさらなる脆弱化

（例）町内会活動に参画できない☞入会しない、退会する。
そもそも町内会活動にメリットを感じない、等々。

課題解決に向け活動のOut Line(概略)

1、スタッフの継続的な減少に対して【直近の課題】

① 「役員」としての参画依頼の継続

② 事業部制の見直し（事業精査＝縮小・統合）

③ サポートスタッフ制度（役員/班長経験者が中核）

1、スタッフの継続的な減少に対して【直近の課題】

① 「役員」としての参画依頼を継続する。

* **町内会活動**は町内会の役員だけで行う訳ではない。しかし、それを実現するには、**具体的な活動を牽引していく中心のメンバー（スタッフ）** = 役員が必要。

* 近隣の町内会では、役員のなり手不足を解消するために班長から抽選で役員を選ぶ方法を選んだ単会もある。
☞ 第三としては、現時点では、この方法は選択しない。
(動機付け/1年交代☞実効性?)

②事業部制の見直し

👉 各事業の精査＝縮小及び削減（部門統合）の検討

* 役員への参画への働きかけと並行して、**町内会の状況**
を前提とした町内会の体制/組織及び活動内容の再構築。

(検討事項)

- ・ 広報活動の縮小＝行政広報紙関連作業の簡略化/HP活用
- ・ 女性部の活動内容＝「婦人の教室、生活の合理化」？
- ・ 子ども会としての活動の再考

③サポートスタッフ制度（主に役員/班長経験者）

- 👉 永く町内会の活動に関われる仕組み
- 👉 人的交流を重視（やって楽しい町内会）

*より多く住民が自らが住む町の生活環境の維持向上のために、それぞれ形で継続的に地域の活動に参加する。

- ・ 任期なし、（できる人が、できる時に、できる事を行う）
- ・ 活動内容の明確化（防犯防災・町内イベント・地域連携・業務支援）
- ・ ミニマム会議（月次定例会出席要請なし、HP・メール等の活用）

①だいさんひまわり隊及び三嶋神社隊の再編成

②防災活動サポート隊の立上げ

2、会員数の継続的な減少に対して（中期的課題）

*町内会活動の活性化が前提


① 転入者への加入活動の継続（会長、副会長が担当）

☞ 訪問＝町内会活動のあるべき姿＝基本スタンスを伝える

② 非会員への再アプローチ＝加入促進活動


☞ ターゲットを絞る。情報収集（会員の協力）

3、世帯特性の変容に対して（中期的課題）

① 高齢者（高齢単身）世帯の町内会における
位置づけの明確化 （例）班長業務の免除

② 班長業務の軽減

 行政広報配布作業の返上

 募金・集金作業の効率化

来期（令和6年度）の活動に向けて

以上